



田原市立泉小学校 令和8年度5月号

令和8年5月29日

泉小だより

校訓

清美

学校教育目標 心豊かでたくましい子 ○深く考える子 ○がんばりぬく子 ○助け合うやさしい子

「最高の運動会！ワクワクのカギは輝く笑顔！」～地域・保護者ととともに～
校長 小笠原 俊範

昨年度から運動会の名称を「保小合同運動会」から、「泉校区合同運動会」へ変更しました。競技や演技などについては、昨年度との変更はありませんが、小学校児童と保育園児だけではなく、地域や保護者のみなさまにも積極的にご参加いただき、「泉校区のみなさまの団結力を高めたい」「子どもたちの思い出に残る運動会にしたい」などの思いからの変更です。



小学校では、運動会を子どもたち自身の手でつくり上げるといふ経験をさせたいとの思いから、運動会のテーマを2～6年生の子どもたちから募集しました。集まった多くの案をもとに、児童会が中心となり、スローガン「最高の運動会！ワクワクのカギは輝く笑顔！」へと練り上げられました。前向きな気持ちで、笑顔で活動すれば、自然とワクワク感がうまれ、すてきな運動会になるであろうという思いが込められています。

演技・競技においては、1・2・3年生の「チェックリ玉入れ」の後に、「わっしょい！玉入れ！」と題して、1・2・3年生は、一緒に保護者、地域の方々と一緒に玉入れを行いました。4・5・6年生の台風の目「最短！最速！サイクロンターン」では、泉消防団、地域スポーツ普及員の方々チームを組み、子どもたちと一緒に競技を行いました。全校児童参加の「大玉送り」の後は、「泉校区総出！大玉送り」を行い、来賓、参観者の方々と4・5・6年生の子どもたちで対戦しました。4・5・6年生の「泉っ子ソーラン」では、4年生担任が子どもたちと一緒に踊り、会場を盛り上げました。「赤白対抗リレー」においても、地域、保護者、教職員でチームを組み、子どもたちと一緒に競争に参加しました。みんなでつくりあげる運動会であると実感するとともに、子どもたちの元気いっぱいの歓声と凛々しい姿や地域・保護者の方々のあたたかな気持ちに触れ、清々しい気持ちで胸が一杯になりました。恒例の「泉音頭」「百万人のジャンケンポン」にも、たくさんの保護者・地域のみなさまにご参加いただきました。ありがとうございました。



そして、一昨年度、泉校区コミュニティ協議会のみなさまから寄贈いただいた入場門、地域の方に設置のご協力をいただき万国旗を飾り、運動会の雰囲気をも盛り上げました。昨年度、石川勝様のご寄付によって購入させていただきました泉小 法被も運動会に華を添えました。4・5・6年生の子どもたちや地域の方、教職員が身にまとい、「泉音頭」や「泉っ子ソーラン」を踊りました。なお、この法被は、本年度も泉校区夏まつりでも子どもたちに貸し出し、盆踊りでも身につけてもらう予定です。子どもたちが、泉校区を盛り上げてくれることを期待しています。

各競技や赤白での勝負は決めますが、どの子も一生懸命取り組みました。上級生はよく働き、下級生を引っ張ることができました。低学年もとても大きな声で応援していました。全校でスローガンを意識して、子どもたちの笑顔いっぱいの運動会ができたことは、何よりもすばらしかったです。



— 家庭・地域・学校 ともに子どもたちの育成 —

運動会の成功の裏側には、PTA役員の方、保護者の方、地域学校協働本部や地域のみなさまのご支援やご協力がありました。子どもたちが運動会で力いっぱいがんばることができる環境づくりのためには、たくさんの大人の力が必要です。このような機会を通して、たくさんの大人が集結する力の大きさや価値を実感しました。ご協力いただき、本当にありがとうございました。

5月8日（木）に、運動会に向けて環境整備作業を行いました。PTA役員、保護者ボランティア、地域学校協働本部のみなさまにご協力いただき、校内の除草、樹木の片付けなどを行っていただきました。全校児童は、運動場の草取りや石拾いなどを行いました。4月29日（祝）に、泉シニアクラブの方々によって、校地内への除草剤の散布も行っていただきました。また、4月下旬から運動会前にかけて、地域学校協働本部の方々と教職員で運動場トラックのコースロープの張り替えを行いました。また、地域学校協働本部の方に、伐採した樹木の撤去も行っていただきました。



4月27日（月）に、地域学校協働本部ゆめ支援部の小笠原さんと平井さんを講師にお招きし、5・6年生の児童を対象に泉音頭の練習会を行いました。泉音頭の振り付けを確認しながら踊るうちに、子どもたちはすぐに踊り方を思い出したようです。また、4月30日（木）には、6年生児童が1・2年生児童に泉音頭の伝達会を行い、泉音頭の継承を図りました。泉音頭を踊ることで、ふるさと泉への愛着を深めるよい機会となりました。また今後は、地域学校協働本部で放課後に「盆踊り太鼓（泉音頭）練習会」も計画しています。



5月2日（土）には、PTA役員の方々に、松の木の消毒を行っていただきました。また、4月28日（火）には、4年生の子どもたちと地域学校協働本部の方で、松の菰の撤去作業を行いました。子どもたちは、なぜ菰巻きをするのか、泉小にとっての松の木の大切さなどを学ぶよい機会となりました。昨年度は、10数本の松の木を切り倒すことになり、とても残念でした。本年度は松の木を切り倒さず、今後も子どもたちが自然に囲まれた環境で生活し、いつまでも「松の木の学校」が持続できることを願っています。



運動会以外の日々の教育活動においても、地域・保護者の方々にご参画いただいております、子どもたちの学びへのご支援をいただいております。

5月20日（水）の朝の時間に、本年度最初の「読みきかせ」を行いました。年間12回、「まっぼっくり」の会の会員の方々にご来校いただき、本年度も実施します。この活動は、数十年にもわたり、継続していただいております。子どもたちにとっては、とても楽しみにしており、子どもの情操を養う意味でも有意義な活動です。



5月20日（水）の6時間目には、4～6年生の子どもたちは、第1回のクラブを行いました。本年度のクラブは、子どもたちがやってみたい活動を事前に調査し、教職員が得意であり、保護者や地域の方と協働して取り組める活動を行えることなどを念頭に、6つのクラブを開設しました。子どもたちの体力の向上や体を動かす機会の確保を目的にした「スポーツクラブ」「ピンポンクラブ」、子どもたちの想像力、表現力を養う「ものづくりクラブ」「ミュージックステーションクラブ」、子どもたちのコミュニケーション力を育成する「ボードゲームクラブ」、ふるさと教育の一環であり、地域のすばらしさを知る「ふるさと探検クラブ」です。子どもたちから希望をとり、すべての子が第1希望のクラブに参加しています。多少の人数のばらつきはありますが、子どもたちの意欲を優先した形で、活動を行っています。



— 予期せぬ大災害への備え —

泉小学校では、災害の発生に備えて、年間3回の避難訓練を全校児童で行っています。4月22日（水）には、理科室からの出火を想定して、第1回避難訓練を行いました。子どもたちは、ハンカチで口を覆い、静かに素早く避難行動をとることができました。また、火の回りを早くしないために、教室や廊下の窓も閉めて避難できました。6月には、地震発生時の避難、その後、津波に備えての垂直避難、保護者への引き渡しなどの訓練も泉保育園、赤羽根中学校と一緒にしています。

また、4月下旬には、運動場北側に埋まっている非常用飲料水貯水槽（約60m³容量）の切替型緊急時遮断弁の故障による交換作業が行われました。



「エグい」「ヤバい」などの言葉について思う

先日、ある講演会に参加しました。講師は、ノンフィクション作家の石井光太氏で、演題は「スマホネイティブ世代が抱える生きづらさとは何か」でした。自分自身にとっても、子どもたちの成長を支える立場にとっても、とてもよい内容だと感じましたので、少しだけご紹介させていただきます。

インターネットやスマートフォンが普及し、私たちは、大人も子どもも短い文や単語を使って人に感情を伝えることが増えています。そのことは、とても便利であり、否定するものではありません。しかし、これから言葉を覚え、自分の気持ちや感情を言葉で表現していくことを学んでいく子どもたちにとっては、危惧する面があります。例えば、「エグい」や「ヤバい」などは、よい面でも悪い面でも使用されています。言った側と言われた側の意図がずれてしまうこともあります。また、人は、思考する際に自分の頭の中で

様々な言葉を駆使して思考していくそうです。そのため、「エグい」や「ヤバい」などの言葉は、そこで思考が止まってしまうそうです。石井氏によれば、ある調査から、これから成長していく子どもにとっての国語力の低下は、下のような弊害が危ぶまれるそうです。

- ▲ 自分の気持ちや意思を説明することができなくなる。
- ▲ 相手の気持ちを考えられず、相手を傷つけたという意識がもてなくなる。
- ▲ その場の雰囲気を読むことが苦手になる。
- ▲ 相手とぶつかりやすく、自分も挫折しやすくなる。
- ▲ 自分の希望を一方向的に押しつけてしまいがちにあり、自分の希望がかなわないと相手を恨むこともある。

私たち大人は、特に私たち教職員は、子どもたちの前では、「エグい」「ヤバい」などの言葉を使わず、様々な種類の言葉を駆使して気持ちや状況を伝える必要性を感じました。今、ぐんぐん知識を吸収している子どもたちには、たくさんの言葉の引き出しを持ってほしいです。また、様々な語彙力を身につけることは、子どもたちの生活を豊かにすることにもつながると思います。泉小学校では、未来を担う子どもたちに豊かな言葉の世界を教えていきたいと考えています。

— 泉小コミュニティ・スクール基金 — 感謝

昨年度から、コミュニティ・スクールの組織を活用し、泉小コミュニティ・スクール基金を設立しました。渥美商工会泉支部の会員のみならず、泉校区のみならず、泉校区コミュニティ協議会から多大なるご支援をいただいています。6月1日（月）の海岸清掃・潮干狩り・あさり汁や今後の松の菰巻きなどコミュニティ・スクールの事業において、子どもたちの活動のために運用させていただきます。ご支援、ご協力ありがとうございます。

— 泉小 ブログ —

子どもたちの学校での活動やその様子などをブログにて情報発信しております。ご覧いただけましたら幸いです。



「えぐい」「やばい」といったマルチ言葉（一つの言葉でいろいろな気持ちを表すもの）を言い換えてみよう（出所：『これからの時代に身につけたい国語力』）